地質ニュース498号，30-32頁，1996年２月
Chishitsu News no. 498, p. 30-32, February, 1996

20万分の１地質図幅「徳島」（第２版）

牧本　博[1)]・利光誠一[1)]・高橋　浩[2)]・水野清秀[3)]

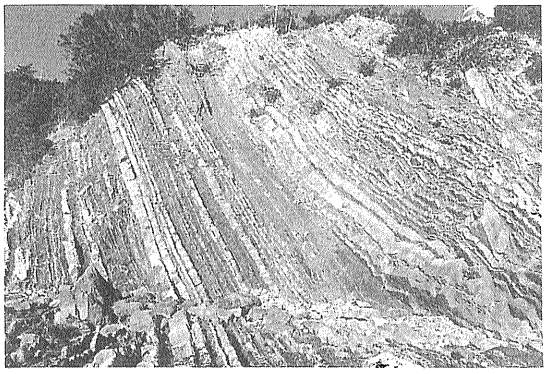
徳島図幅地域には，北東端の兵庫県明石市から南西方へ淡路島，そして四国の徳島・高松両市に至る地域が含まれ，更に北西端は岡山市に属しています．そして，徳島県吉野川に沿って伸びる大断層中央構造線を挟んで西南日本を構成する主要な地層・岩石が分布しています．20万分の１地質図幅「徳島」は，第１版が1961年に対馬坤六・片田正人により地質編集され刊行されましたが，その後在庫切れとなり久しく入手不能となっていました．今回の第２版は第１版以後34年ぶりの改訂で，凡例の数も第１版の23から40へとほぼ倍増しています．本地質図幅の編集に当たっては，地質図幅中に表記した70近くの文献を参照していますが，最も基礎になったのは既刊の５万分の１地質図幅「明石」（水野ほか，1990）・同「洲本」（高橋ほか，1992）及び調査中の同「由良」（利光ほかの未公表資料）から得られている数多くの新知見でした．

さて，本地質図幅の見所ですが，まず取り上げるのは中央構造線です．この中央構造線は，日本列島に見られる主要断層の１つで，西南日本はこの断層を境に太平洋側の外帯と日本海側の内帯に分けられます．中央構造線は，これまでの研究によれば，今から１億年以上も前の白亜紀前期に活動を始め，今も横ずれ変位している活断層です．本地質図幅では，徳島県吉野川の北岸に沿って伸びており，更に東方では淡路島南端をかすめて走っています．徳島県下での中央構造線は，1993年に当所から出版した中央構造線活断層系（四国地方）ストリップマップ（水野ほか，1993）をもとに，その分布や最も新しい地層である第四紀層を切っている様子などを示しました．

中央構造線の南側には三波川結晶片岩類が分布しますが，徳島県の吉野川南岸及び淡路島の南端沖の沼島とも，泥質片岩・苦鉄質片岩に大きく区分し，併せて主要な褶曲軸を示しました．

中央構造線のすぐ北には，白亜紀後期の和泉層群と呼ばれる海域に堆積した地層（第１図）が南北幅約10 kmで分布します．本地質図幅では，岩相・地質時代などから主部相・北縁相及び南部相に区分し，更に主部相を堆積サイクルをもとに四国で３累層，淡路島で３累層に細分しています（第１表）．この和泉層群では，東に開いた弧状の地層分布が目を引きます．この地層に含まれるアンモナイトなどの化石によれば，和泉層群の分布の西端に当たる四国西部松山地域から東に向かって地層の時代は順次新しくなっています．このことは，白亜紀後期に中央構造線の動きに合わせて，同構造線の北側が西から東へ順次凹地となりそこに地層が堆積していったためと考えられています．

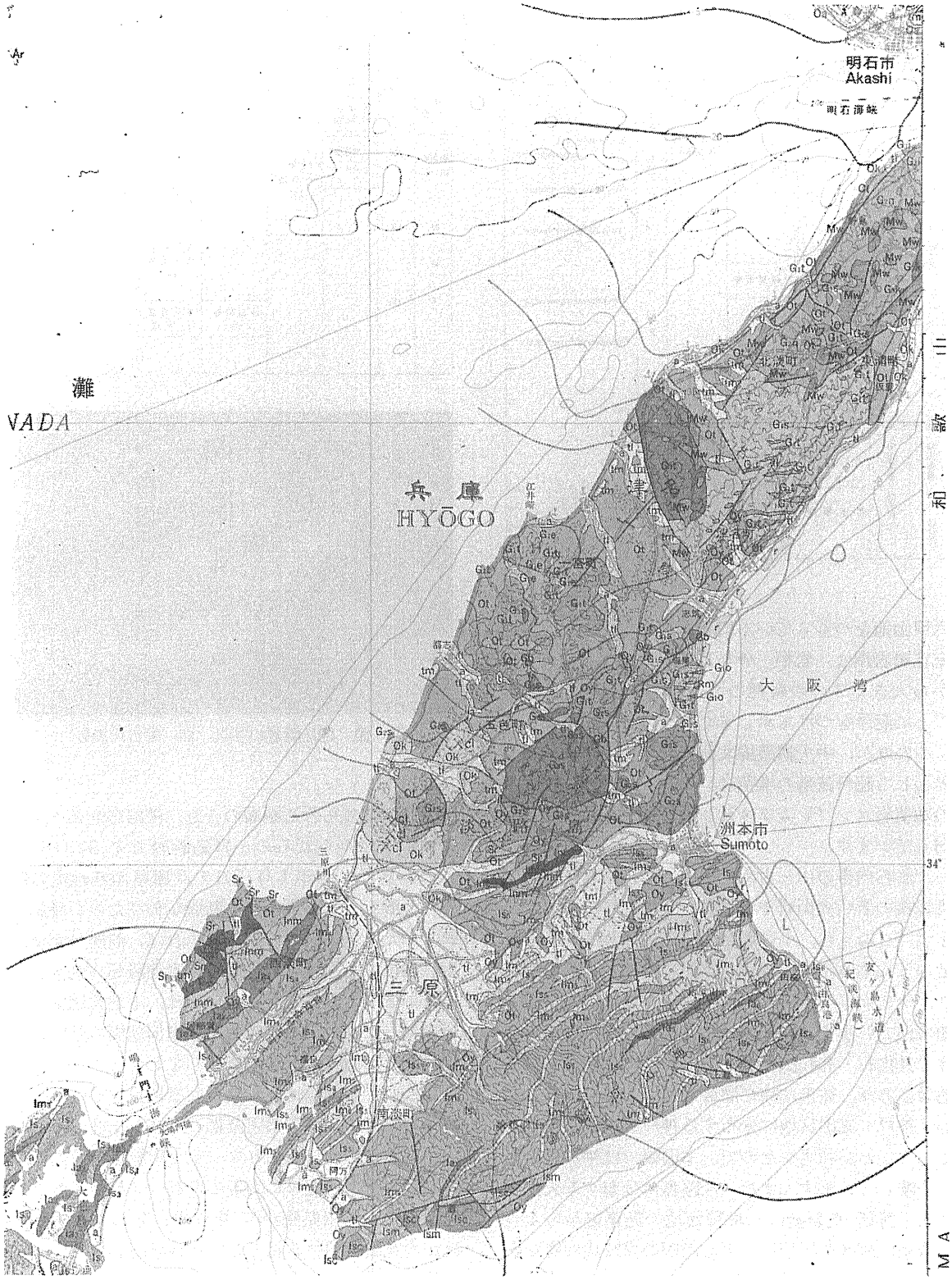
この和泉層群の北側には，白亜紀に形成された花崗岩類が内帯側の基盤として広く分布しています．この種類の岩石は，この図の北東端の明石市のすぐ東の地名をとって御影石とも呼ばれ，神戸市北側の



第１図　和泉層群の代表的な岩相：砂岩と泥岩のリズミカルな互層．淡路島南西部の南淡町福良南西方の海岸．

1）地質調査所　地質標本館
2）地質調査所　地質部
3）地質調査所　環境地質部

キーワード：20万分の１地質図幅，中央構造線，兵庫県南部地震



第２図　20万分の１地質図幅「徳島」

第1表　和泉層群の層序区分及び対比表

北縁相	主部相 四国東部	主部相 淡路島	南部相	地質時代	アンモナイト化石帯
		灘累層		マーストリヒチアン	
			下灘累層（淡路島）		*Pachydiscus* aff. *subcompressus*
		北阿万累層			*Nostoceras hetonaiense*
				カンパニアン	*Pachydiscus awajiensis*
西淡累層（淡路島）	板東谷累層	阿那賀累層			*Pravitoceras sigmoidale*
	日開谷累層				*Didymoceras awajiense*
（四国東部）城山累層（礫岩・砂岩相）／引田累層（泥岩相）	堀田累層				*Didymoceras* sp.
					Baculites kotanii
					Metaplacenticeras subtilistriatum

第2表　鮮新-更新統の層序区分及び対比表

地質時代	年代（万年前）	淡路島	吉野川流域	淡路島 南淡町	淡路島 一宮町－洲本市	淡路島 東浦町・北淡町	明石地域
更新世中期		境尾峠礫層 Yg		（大阪層群）			
更新世前期	100	三豊層群 Mi	上柱層・森山層 Md		五色浜累層 Ok	仮尾累層 Ok	明石累層 Oa
鮮新世	200				愛宕累層上・中部 Ot	富島累層 Ot	
	300			油谷累層 Oy	愛宕累層下部 Oy		

第3図　野島断層の写真（佃　栄吉氏撮影）

六甲山地をつくっている岩石と同じものです．白亜紀花崗岩類は，岩相・分布及び岩体相互の貫入関係から大きく3つの時期のものに区分し，また岩体ごとに記号をつけて示しました．

このほか，中央構造線北側の内帯には，中・古生界として超丹波帯の堆積岩コンプレックス，秩父帯の堆積岩コンプレックス及び領家変成岩類が狭く分布しています．

これら内帯の中・古生界を覆って，新第三紀中新世以後の若い火山岩や堆積岩が点在して分布しています．このうち，小豆島から高松市にかけては中新世の安山岩から流紋岩の溶岩・火山砕屑岩が広がり，サヌカイト（カンカン石）や寒霞溪（かんかけい）などの景観で知られています．また，淡路島に分布する岩屋累層は，貝化石・有孔虫化石などによれば中新世中期の地層であり，従来は神戸層群に含められていましたが，神戸・三田盆地に分布する神戸層群が古第三系であることが判明したので，本図幅では神戸層群から分離しています．また，淡路島に分布する大阪層群など鮮新-更新統は，堆積盆地の発達史から4つの時期に地層を区分し，更に四国の同時代の層を含めて対比しました（第2表）．

本図幅に見られる断層のうち，淡路島北部の西海岸に沿ってみられるのが野島断層です（第3図）．この断層は，昨年1月17日の兵庫県南部地震の際に再活動し，また更に南へ断層が伸びたのが確認されました．地震直後の調査によれば，断層の東側が南に変位する右横ずれ断層で，東側隆起の動きを伴っています．野島断層については，本地質図幅が印刷中だったため，今回の兵庫県南部地震の際に新たに活動した延長部を含めて示しました．

最後に，本図幅地域に見られる地質学的に興味ある景観として，徳島県阿波郡の阿波の土柱，香川県大川郡白鳥町のランプロファイヤ岩脈や同県高松市の屋島の卓上台地等があることをつけ加えておきます．また，香川県庵治（あじ）町-牟礼町に分布する庵治石ほかの花崗岩類は石材として，和泉層群の砂岩などは砕石として広く利用されています．